

C O N T E N T S

巻頭言.....	1	学会からのお知らせ.....	8
地域部会・公募研究会活動報告.....	2	学会議事録等.....	10
日本のバイオインフォマティクス研究室.....	5	学会の現況.....	15
会員による著書紹介.....	6	編集後記.....	17
書評.....	7		

巻 頭 言

新時代のバイオインフォマティクス学会の発展に向けて

会員の皆様

この度、2025年4月1日より日本バイオインフォマティクス学会の会長及び理事長を拝命いたしました浜田道昭でございます。

歴代の会長・理事長・理事・幹事の多大なる貢献及び会員の皆さまの多大なサポートにより、本学会は着実に発展を遂げ、会員数も順調に伸びてきております。実際、2024年度末時点において、会員数1,184名（正会員868名、学生会員311名）、賛助会員数21機関に到達いたしました。特に、直近の会長であった五斗先生、山西先生が築き上げてきた強固な基盤に心より感謝申し上げます。

皆様ご存知の通り、「バイオインフォマティクス」ということばは、生命科学の研究者であれば誰もが認知するものとなっています。その結果、近年では、生物学、生命科学、医学、薬学などの各分野において、人工知能（AI）に代表される情報科学の活用が当たり前に行われるようになってきました。このような時代の変化の中で、バイオインフォマティクス学会が他の多くの関連学会の中でどのような立ち位置を取るべきかは必ずしも自明ではないと感じております。他の学会には無いバイオインフォマティクス学会らしさを育成し全面に押し出しながらも、関連学会との連携も模索

し、企業、研究者、学生すべてにとって魅力ある学会を目指していきたいと考えております。

基本方針

これからの2年間、以下の方針に基づいて学会運営を行ってまいります：

1. 裾野を広げる活動の強化 - 特に若手研究者・技術者へのサポートを手厚くし、次世代を担う人材の育成に注力します。産学連携を促進し、学生・研究者と企業を繋ぐようなイベントの企画などを推進していききたいと思います。
2. 学術的深化の推進 - 上述のバイオインフォマティクス学会らしさとして、情報科学の専門家を多く有する学会として、教科書に載るような高度かつ波及効果の高い方法論の研究開発を積極的に進め、学術的価値の創出に貢献します。
3. 実験科学と情報科学を繋ぐ架け橋 - 異分野融合を促進し、新たな研究領域の開拓を支援します。実験科学がメインの方と情報科学がメインの方双方にとってwin-winとな



る学会を確立し、本学会を通して多くの共同研究が生まれるようにしていきたいと思っています。

4. **体系的な学習環境の整備** - バイオインフォマティクスという学問は今や膨大な分野の集合体となっており、全ての内容をフォローすることが非常に難しくなってきました。これらを少しでも解消するためのコンテンツを、初学者にもアクセスしやすい形で提供します。例えば、学会で提供しているJSBi Bioinformatics Reviewは、バイオインフォマティクスの各分野の最先端の内容がわかりやすくまとめられており、年間10万件以上のアクセスがあります。今後もさらなるコンテンツの充実を推し進めていきたいと思っています。並行してバイオインフォマティクス技術者認定試験の運営も精力的に行い、さらに魅力のある資格へと発展させることを目指したいと思っています。
5. **事務局機能の強化** - 会員数増加に対応した持続可能な学会運営体制を構築し、バイオインフォマティクス技術者認定試験や年会などを安定的に運営するためには、学会事務局機能の強化が必須であると考えています。中長期的な視点から事務局機能を強化していきたいと考えています。

運営方針

年2回開催される理事会においては丸一日近くの時間をかけて活発な議論が行われていますが、今後は理事会のみなら

ず、定常的に理事・幹事の先生方と綿密なコミュニケーションを取り議論をする機会を増やしていきたいと考えております。また、限られたリソースの中で最大の効果を発揮するため、メリハリのある投資を行ってまいります。まずは国内での基盤を強固なものとしつつ、国際的な視点も持ちながら学会活動を展開していきたいと思っています。

会員の皆様へのお願い

これらのビジョンを実現するためには、会員の皆さまからの忌憚のないご意見やご提案がとても大切です。学会をともに築き上げていく仲間として、積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。特に、年一度の総会では会員の皆様とコミュニケーションを取るための重要な機会であると考えておりますので、年度末の忙しい時期であるとは存じますが、積極的なご参加をお願いいたします。参加が難しい場合でも、委任状を提出する際に、学会へのご意見を受付することが可能となっておりますので、ぜひご記入をお願いいたします。皆様からいただいたご意見は理事会で共有し、今後の運営の参考にさせていただきたいと思っています。

これから2年間、日本のバイオインフォマティクスのさらなる発展のために全力を尽くしたいと考えておりますので、引き続きのご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

浜田 道昭

(早稲田大学理工学術院)

地域部会・公募研究会活動報告

北海道地域部会

佐藤 昌直（北海道大学大学院農学院）

「バイオインフォマティクス revisited - 分野融合から最先端まで」をテーマに、北海道におけるバイオインフォマティクス研究の顕在化と学会員・非学会員の交流促進を目的とした公募研究会を2025年9月29-30日に北海道大学にて開催します。オミックス解析や深層学習の普及により、バイオインフォマティクスは、現代生物学、とりわけ分子を中心とする生物学にとってますます重要な学問領域となりましたが、生物分野に十分に浸透したいえる状況にはありません。本研究会では、バイオインフォマティクスを充分に取り入れられていない生物系研究者を主な対象に、そのパワフルさを改めて知り、取り入れてもらう良い機会となることを目指します。特別講演として、ウイルス進化研究で活躍されている伊東潤平博士（東京大学）[<https://sites.google.com/view/jumpeiito>]、および「個の確立」についてゲ

ノミクスを含めた多様なアプローチで研究を推進されている和多和宏博士（北海道大学）[<https://www2.sci.hokudai.ac.jp/faculty/researcher/kazuhiro-wada>]を迎え、他に研究者、学生を含む約10名の口頭発表、20-30件前後のポスター発表を実施予定です。北海道発のバイオインフォマティクス研究の深化と交流の場に、ぜひご期待ください。



第3回北海道バイオ “Mix-up” <https://github.com/satoxlab/>

hokkaido_bio_mix-up_03/wiki

参加申込フォーム：<https://forms.gle/uCgdUZqP5nx26Ry>

A7

参考

第1回北海道バイオ“Mix-up” https://github.com/satoxlab/hokkaido_bio_mix-up_01/wiki

第2回北海道バイオ“Mix-up” https://github.com/satoxlab/hokkaido_bio_mix-up_02/wiki

関西地域部会

小川 哲平（三井情報株式会社）

昨今のAI技術やデジタル技術の発展も目覚ましく、それらは基礎研究の段階から実際の医療の現場で利用されるフェーズになりつつあります。

このような背景を踏まえ、第36回バイオメディカル研究会では「デジタルで作る未来医療」をテーマに据えることにいたしました。

デジタルツイン技術をはじめとする最新テクノロジーの医療応用から創薬への展開、またそれらの技術の社会実装を見据えた仕組みづくりまで幅広く議論しました。

まずMIRACLE SCIENCE INNOVATION株式会社の宮川先生より、スタートアップ、再生医療開発企業、CiRAのMyiPSプロジェクトが集結し、iPS再生医療等の未来医療橋渡し拠点とスタートアップ育成加速拠点の創成を目指すNakanoshima Grossの紹介と、ヘルスケア・ライフサイエンス領域のスタートアップエコシステム構築に向けた課題と具体的取り組みをご紹介いただきました。そして、2人目の講演者の上村先生からは、心臓血管パイオデジタルツインを利用した心不全自動治療システムの研究開発における、システム開発の現状と、将来の展望をご講演いただきました。3人目の講演者の玉木先生からは、高性能な候補物質を効率的に探索する手法として注目を集めている抗体創薬における大

規模言語モデルのご研究と、進化分子工学と次世代シーケンサーを組み合わせた独自のプラットフォームに関する取り組みについてご講演いただきました。最後の大阪大学ヒューマン・メタバース疾患研究拠点の森先生からは、DNA構築プロセスを記述・共有可能なフレームワーク「QUEEN」と最近の対話型AIを活用したDNA配列設計の効率化、自動化の取り組みについてご講演いただきました。前回の研究会では完全オンサイトとした結果、やはりオンライン開催の要望が強かったこともあり今回はオンラインのみの開催でしたが、オンサイト開催に負けない熱量で、チャットからの質問も多く飛び交う結果となりました。

快くご講演を引き受けて下さった講師の皆様、参加者の皆様とこのプログラムの実現にご尽力いただいた関係者の方々に、心から感謝いたします。講師から講演資料もご提供をいただき、会員に共有させていただく予定です。運営に関して、前回の反省もありオンライン開催としましたが、やはり現地開催の熱気に比べるとやや劣るところも感じられたので、ハイブリット方式など、両者の良い点を上手くミックスできるような開催方法も含めて、次回以降より活発に議論できる場にしていきたいと思っています。

沖縄地域部会

池松 真也（沖縄工業高等専門学校）

昨年度、沖縄開催のAPBJC2024は盛会のうちに幕を閉じることができました。沖縄が第1回の開催地になったことは、大変光栄です。ありがとうございました。

既に2025年のJSBi沖縄地域部会の活動がスタートしています。

沖縄地域部会の本年度の活動予定は、次の2点です。1つは、今年度から新たに沖縄県商工労働部ものづくり振興課の「健康・医療データサイエンス人材育成プログラム活用事業」がスタートします。もう1点は、2025年日本バイオインフォマティクス学会年会でのランチョンセミナーを主催し、実施す

ることです。

1点目は添付のチラシ（3種類）に記載の事業案内に従って進行していきます。オンラインでの講義となりますが、すべての講義で見逃し配信を行います。基本的に講義のある時間に他の用事が入っていても、この見逃し配信により、“いつでも、どこでも、何度でも”を実現していきます。この事により、



より一層、受講者の方々の学習の利便性が上がり、教育効果も上がることを想定しています。オンラインでの講義だけでなく、「実践研修コース」を夏季に1回と冬季に1回実施し、次世代シーケンサーを用いたウェットとドライの実技コースを計5日間ずつで実習できるように設定しています。

2点目の2025年日本バイオインフォマティクス学会年会でランチョンセミナーですが、現時点での予定では、9月4日に実施となっています。沖縄県のバイオインフォマティクス、もしくは、データサイエンスの人材育成事業で学び、「バイ

オインフォマティクス技術者認定試験」を合格し、現在、各部署でご活躍されている先生方にそれぞれの研究について発表いただく内容になっています。12年間にわたる沖縄県の人材育成が最先端の研究成果につながるドラマを是非お聞きください。

以上、2025年も、沖縄からの発信に努め、是非学会にご協力をお願いし、多くの皆様にサポートいただければと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

沖縄県委託事業 令和7年度「健康・医療データサイエンス人材育成事業」

バイオインフォマティクス 人材育成講座

令和7年度
受講生募集

- 受講料無料！受講者費用負担はありません。
- 実習コース受講し身に付けたスキルを社会に出て活かすことができます。
- 時間を満たさない受講スタイル、既知し配信、で好きな時間に受講可能です。

令和7年度講座一覧

入門コース

5月3日から全8回講義

こんな方にオススメです

- データサイエンスの基礎知識、統計学や機械学習の基礎知識を学びたい方
- 生物情報学やバイオインフォマティクスに興味がある方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方

活用事例紹介コース

10月4日から全4回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方

資格試験挑戦コース

8月2日から全8回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方

実践研修コース

11月14日から全2回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方

沖縄県委託事業 令和7年度「健康・医療データサイエンス人材育成事業」

バイオインフォマティクス 人材育成講座

令和7年度
受講生募集

- 受講料無料！受講者費用負担はありません。
- 実習コース受講し身に付けたスキルを社会に出て活かすことができます。
- 時間を満たさない受講スタイル、既知し配信、で好きな時間に受講可能です。

令和7年度講座一覧

入門コース

5月3日から全8回講義

こんな方にオススメです

- データサイエンスの基礎知識、統計学や機械学習の基礎知識を学びたい方
- 生物情報学やバイオインフォマティクスに興味がある方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方

活用事例紹介コース

10月4日から全4回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方

資格試験挑戦コース

8月2日から全8回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方

実践研修コース

11月14日から全2回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方

沖縄県委託事業 令和7年度「健康・医療データサイエンス人材育成事業」

バイオインフォマティクス 人材育成講座

令和7年度
受講生募集

- 受講料無料！受講者費用負担はありません。
- 実習コース受講し身に付けたスキルを社会に出て活かすことができます。
- 時間を満たさない受講スタイル、既知し配信、で好きな時間に受講可能です。

令和7年度講座一覧

入門コース

5月3日から全8回講義

こんな方にオススメです

- データサイエンスの基礎知識、統計学や機械学習の基礎知識を学びたい方
- 生物情報学やバイオインフォマティクスに興味がある方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方
- データサイエンスの基礎知識を学びたい方

活用事例紹介コース

10月4日から全4回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの活用事例を知りたい方

資格試験挑戦コース

8月2日から全8回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの資格試験に挑戦したい方

実践研修コース

11月14日から全2回講義

こんな方にオススメです

- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方
- バイオインフォマティクスやデータサイエンスの実践研修に参加したい方

日本のバイオインフォマティクス研究室

千葉大学大学院 医学研究院 人工知能 (AI) 医学 理化学研究所 数理創造研究センター (iTHEMS) 数理展開部門 医科学データ駆動数理チーム 理化学研究所生命医科学研究センター (IMS) 予測医学特別プロジェクト 医療データ数理推論 特別チーム

高橋 明子 (千葉大学大学院 医学研究院 人工知能 (AI) 医学特任助教)

今回こちらのコーナーでは、川上英良先生がリーダーを務める3つのラボ、千葉大学大学院 医学研究院 人工知能 (AI) 医学、理化学研究所 数理創造研究センター (iTHEMS) 数理展開部門 医科学データ駆動数理チーム/生命医科学研究センター (IMS) 予測医学特別プロジェクト 医療データ数理推論特別チームを紹介させていただきます。

千葉大学大学院医学研究院 人工知能 (AI) 医学は、千葉大学亥鼻キャンパスにあります。2019年に新設された研究室で、川上英良教授を筆頭に教員11名、スタッフ8名、大学院生7名に加え、客員教員・研究員9名、さらにスカラシッププログラムの学部生も多数所属しています。

こちらの研究室では医学・生物学領域のビッグデータから生命現象を理解し、予測・個別化医療に応用するための数理的基盤を確立することを目標に研究を行っています。具体的な内容としては、複数の要因によって発症・進行する感染症、炎症疾患、生活習慣病を主なターゲットとして、最先端のAI・データサイエンス技術を用いた疾患層別化と発症・予後予測の研究を進めています。また、そのために必要な大規模な臨床情報・検体収集のシステムの構築や、ウェアラブルデバイスや唾液の計測といった、日常的かつ低・非侵襲の計測手段の開発・応用、疾患の早期検知・予測のためのAI・数理解析技術の開発・整備も併せて行っています。実験室も備えており、網羅的な細胞間相互作用解析プラットフォームの開発をはじめ、Wet領域においても革新的な手法開発を進め、Dry、Wetの両輪で研究を行っています。

続いて理化学研究所のラボの紹介です。数理創造研究センター (iTHEMS) 数理展開部門 医科学データ駆動数理チームは理化学研究所横浜キャンパス内にあり、チームディレクターの川上先生をはじめ、研究員、テクニカルスタッフ、研究パートタイマーなど10名、客員研究員5名が所属してい

ます。

ここでは、人工知能や数理科学、システム生物学を始めとした生物医学の知識を統合し、ヒトの疾患について理解・予測する研究をしています。様々なデバイスを通じて得られるマルチモーダルデータを活用した解釈可能なモデルを開発し、そこから疾患のメカニズムへの理解を深めようとしています。またさらにその先の早期診断、患者の層別化、個別化医療および介入を臨床現場で実現するためのツールの開発も行っています。そして現実の身体とデジタルの情報をつなぐデジタルツイン技術の開発を通して、疾患や健康のメカニズム理解の加速を目指します。

最後に理化学研究所の生命医科学研究センター (IMS) 予測医学特別プロジェクト 医療データ数理推論特別チームを紹介します。こちらでも理化学研究所横浜キャンパス内にあり、チームディレクターの川上先生をはじめ、研究員、テクニカルスタッフ、研究パートタイマーなど20名、研修生4名、客員研究員12名が所属しています。こちらのラボでは、様々な数理科学を柔軟に応用し、健康から疾患に至るまでの状態の理解と一人一人の特性に基づいた予測モデルの確立を目指します。IoTデバイスの浸透により得られるようになった、実社会の様々な測定データを活用し、健康/疾患の状態変化を理解・予測しようとしています。

川上先生の研究指導はラボメンバーと定期的に進捗を確認するミーティングを行い、マイクロマネジメントはせずに個々のペースで研究を進めるスタイルです。千葉大には研究を始めたばかりの学生も多いですが、まずは興味があるもの



を見つけて実際に手を動かしてみて、自分だけの強みを磨こう、という川上先生の常日頃からのメッセージの下、のびのびと研究をしています。幅広い解析を行う研究室柄、様々なバックグラウンドを持つ研究者が所属していますが、元々のバックグラウンドが素粒子論や農学など、とても多様な人材が集まるユニークなコミュニティになっています。AIの劇

的な進歩により、探索的な研究のスピードが飛躍的に向上し、研究を取り巻く環境が大きく変化しつつあります。川上先生いわく、「研究者にとって、よい問いを立てる能力の重要性がさらに増していくだろう」とのこと、一緒に問いを考える仲間をぜひお待ちしております。

会員による著書紹介

大規模データで困ったときに、まず図を描くことから始める 生命科学データ解析 (河野暢明／編)

本書は、膨大かつ複雑化する生命科学データを的確に「図」として可視化するための、実践的かつ体系的なガイドである。データ解析が専門外であっても、まず何を描くべきかという“ファーストアクション”さえ知っていれば、分野を越えた連携や共同研究において迷うことはもうない。取得データを可視化し、意味ある形に落とし込む技術は、研究者の共通語とも言えるものであり、その基本が共有されていれば、専門の異なる者同士であっても議論は成立する。データの可視化と統計処理だけで“情報屋”に丸投げするのはもったいないし、逆に言えば、それだけで自身の役割を果たした気になってしまう情報屋も良くない。データの中身や構造、解析ツールの基本的な使い方さえ押さえていれば、誰でも自分の手でデータを「見る」ことはできる。まずはとっかかりとなる初歩的なステップだけでも、この本を読めば自力で乗り越えられる——そんな思いを込めて、本書を編んだ。

第I部では、ゲノム、トランスクリプトーム、メタゲノム、ChIP-seq、Hi-C、シングルセル、プロテオーム、顕微鏡、原子間力顕微鏡といった多様なデータ領域ごとに、それぞれの専門家が一次データから図表作成に至るまでのプロセスを丁寧に解説している。いずれも、実際の研究現場で使われている手法をベースにしており、「まず何を描けばよいか」を知るための具体的なガイドとなっている。

さらに第II部では、近年注目を集める大規模言語モデル(LLM)を活用した、新しい「学びの術」を提案している。ChatGPTなどの対話型AIと協働しながら、任意の画像をどう出力したら良いか、編者(河野)研究室の大学院生メンバー達が実践形式で学んでいく姿を紹介している。ヒートマップやPCA、MAプロット、注釈付き系統樹といった研究論文に頻出する代表的な図表を、PythonやRで再現する具体的なプロセスを通じて、単なるコマンドの暗記にとどまらず、トラブルシューティングや工夫の余地、より良く伝えるための表現技術

へと学びが発展するよう構成している。

本書は、実験と解析のすれ違いを解消し、研究者がデータの本質を見極め、自らの言葉として図に落とし込むための一歩を支えることを目的としている。可視化を通じて得られる洞察は、研究の質を大きく高める力となる。専門・非専門を問わず、多くの大学院生や研究者にとって、本書が心強い伴走者となることを願ってやまない。



実験医学別冊 大規模データで困ったときに、まず図を描くことから始める生命科学データ解析
解析のゴールドスタンダードを学び、生成AIとの対話でPython・Rを使いこなす
河野暢明／編 羊土社
2025年06月30日発行 B5判 349ページ 付録：スクリプト
ISBN 978-4-7581-2282-5
5,940円/Kindle版 5,821円



書評：ゲノム多様性解析（長田直樹 編著）

松前ひろみ（東海大学医学部基礎医学系分子生命科学）

全ゲノム情報を用いた進化研究には、比較ゲノム（分子進化）とゲノム多様性（集団遺伝）の両方の理解が不可欠である。本書は、後者について初めて日本語で書かれた画期的な入門書だ。本書の編者である長田直樹氏（北海道大学）は、2019年にJSBiでも紹介された「進んで読み解く バイオインフォマティクス入門」https://www.jsbi.org/activity/news/papers_awards/detail-id-260.htmlも執筆しており、進化研究におけるバイオインフォマティクスの解説に定評がある。前著でもゲノム多様性は扱われていたが、本書はより日本語の知見が手薄なゲノム多様性解析に特化し、最新の手法までカバーする形となって出版された。

本書ではゲノム多様性研究の目的を(1) 表現型の多様性を生み出す遺伝的変異の探索、(2) 歴史的な集団構造の推定、(3) 自然選択とその遺伝的基盤の探索としている。かつてはSNPアレイ一択だったゲノム多様性解析も、リシーケンスやMIG-Seq、RAD-Seqなど、種内の多様性を解析する手段が大幅に増え、医学から農学まで生物学全般で需要が高い分野となっている。日本では、比較ゲノムに関する日本語の情報は多数あるのに対して、これまでゲノム多様性解析に関するまとまった情報はほとんどなかった。本書は、前述の長田氏を中心とした日本人の専門家らが、理論から実用的なソフトウェアの使い方やコマンドまで、ゲノム多様性解析に必須項目がコンパクトにまとめてくれており、画期的である。

本書で紹介されているソフトウェアは、ゲノム多様性の論文では、トップジャーナルのメインの図表に必ず含まれるような定番揃いである。実はこれらのソフトウェアは海外のゲノム多様性やバイオインフォマティクスのワークショップでは頻繁に紹介されている。一方、日本で入手できる情報が限られており、評者もその使い方を理解するのに長い時間を要した苦い記憶がある。これからは本書を使えば、ツールに関する悩みを大幅に短縮できるだろう。解析環境の構築方法、入力ファイルの形式やコマンド入力後に表示されるメッセージなど、初心者が分からなくなりがちな点も記載されている。さらにありがたいことに、解析方法の紹介にあたって架空のゲノムデータを用意してくれているので、読者らは事前知識を必要とせず、素の状態ですぐデータからゲノム多様性の発見を体験できるのだ。本書で一通り解析方法を理解した後、より深く知りたい人のためにも、参考文献が充実しているのも嬉

しい点である。ツールの使い方だけではなく、結果の解釈にあたって陥りがちなポイントも網羅されており素晴らしい。例えば、一部のソフトウェア、例えば主成分分析やADMIXTURE (STRUCTURE) は手軽に利用される反面、手法の限界や解釈について深く考えずに取り込んでいる論文も少なくないのではないかな。そのような場合でも本書を手にとって、改めてそれらのツールをおさらいしてみても良いだろう。

また一言にゲノムの進化といっても、種間の違いに焦点を当てる分子進化と、種内の違いに焦点を当てる集団遺伝学では、似たような用語を使っている背景の理論や考え方が異なることがある。近縁種間の交雑のように、種間・種内の違いが曖昧になっているような生物種や現象を扱った論文も増えており、読者はどちらの視点で解析されているかを常に意識する必要がある。そのような場合、分子進化のみを勉強した人がゲノム多様性を含むゲノム進化の論文を読むと、違和感を持つことがある。12章で扱っている分岐年代の推定は、まさにその違和感を説明してくれる代表例と言えるかもしれない。このように本書は比較ゲノム解析とゲノム多様性解析の橋渡しにも適している。

以上のように本書はコンパクトながら読者の立場になって書かれた至れり尽くせりな構成になっている。本書は、ゲノム多様性研究を行う人にとっては手元に置きたい本と言えるし、また多様性と言わずともゲノム解析全般を行う研究室では1冊は常備したい本である。ぜひ皆さんも手に取ってゲノム多様性の世界を探索して欲しい。

ゲノム多様性解析

長田直樹／編著 藤本明洋、河井洋介 他／共著

定価 4,950円（本体4,500円）

判型・頁数 A5・256頁

発行月 2025年3月

ISBN：978-4-627-26171-6



学会からのお知らせ

2025年日本バイオインフォマティクス学会年会・第13回生命医薬情報学連合大会 開催概要

第13回生命医薬情報学連合大会・日本バイオインフォマティクス学会年会 (IIBMP 2025) は2025年9月3日から5日までの日程で、名古屋大学豊田講堂+シンポジオンで開催されます。この年会在名古屋で開催されるのは初めての事です。

大会テーマは「生命・医薬科学とその先へ越境するバイオインフォマティクスVer2.0」とさせて頂きました。実際のところ、バイオインフォマティクスの現versionが幾つかは私も知らないのですが、このテーマの意味は、従来のバイオインフォマティクスの枠組みを超えた人たちにも参加して頂きたいということのつもりです。

これまでの経験から、関係のありそうな仕事をされている方々にバイオインフォマティクス学会にお声がけしても、「自分はエンドユーザーなので……」と答えられる事が多いなと感じていました。この学会は別段、プロのバイオインフォマティクス研究者だけの学会ではなく、むしろバイオインフォマティクスと周辺分野とのインターフェースであって欲しいと思っていて、実際その周辺分野とは非常に広い範囲に及ぶと考えられます。どの程度実現できたかは心もとありませんが、なるべく年会の敷居を低くするように心がけました。そのため基調講演も、必ずしもバイオインフォマティクスがご専門ではない小谷 元子 先生（東北大学）と門松 健治 先生（名古屋大学）をお願いしました。また、バイオインフォマティクス学会からは名誉会員就任講演として、清水 謙多郎 先生（東京大学・日本女子大学）と富田 勝 先生（慶應大学）にご登壇願います。

バイオインフォマティクスの裾野を広げる教育活動やバイオインフォマティクスの未来像についてお聞かせ頂けるようなので、楽しみにしています。

また本年会は新学会長の希望もあり、ダイバーシティー・インクルージョンを重視した年会になっています。会期中、毎日ダイバーシティー・インクルー



(20年前の写真ですが)

ジョンおよびキャリアパスをテーマとしたセッションをランチョンセミナーとして開催する予定です。バイオインフォマティクス学会の今後の方針にも影響すると思いますので、ぜひ皆様の積極的な参加と活発な議論をお願いします。

さらに、若手の登壇の機会を増やしたいという意図から、若手の会セッションとポスターピックアップセッション（ポスターに応募された方のなかからオーラルプレゼンテーションをお願いします）を設けました。前者のセッションは、バイオインフォマティクスソリューションを求める分野外の方を囲んで知恵を出し合うといった内容になるようです（未定ですが）ので、皆様のお知恵も拝借できればと希望します。

本会がバイオインフォマティクスのバージョンアップの一助になるように、実行委員会一同鋭意努力・試行錯誤しておりますので、どうか皆様の積極的なご参加とご支援をよろしくお願いいたします。

大会長 白井 剛
(長浜バイオ大学)

生命・医薬科学とその先へ越境する バイオインフォマティクスVer2.0



2025年日本バイオインフォマティクス学会年会

IIBMP2025

第13回生命医薬情報学連合大会

2025. **9/3(水)~5(金)**

会場 **名古屋大学豊田講堂・シンポジオン**

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

大会長 **白井 剛**(長浜バイオ大学)

主催：日本バイオインフォマティクス学会、日本オミックス医学会
お問合せ先：IIBMP2025 運営事務局 メール / iibmp2025@occi.jp



開催概要

会 期：2025年9月3日（水）～5日（金）

会 場：名古屋大学豊田講堂・シンポジオン（愛知県名古屋市中区）

URL：https://www.jsbi.org/iibmp2025/

テーマ：生命・医薬科学とその先へ越境するバイオインフォマティクスVer2.0

主 催：日本バイオインフォマティクス学会、日本オミックス医学会

共 催：名古屋大学大学院情報学研究科

後 援：情報計算化学生物学会（CBI）、日本生物物理学会

バイオインフォマティクス技術者認定試験 実施報告

2024年度のバイオインフォマティクス技術者認定試験につきまして、予定通り円滑に実施することができました。認定試験委員、作問協力者、査読者の先生方、沖縄特別会場の運営を担当くださった池松真也先生（沖縄高専）、ならびに事務局の齊藤友紀さん（東京大学）には多大なご尽力をいただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。また試験を受験していただいたみなさまにも感謝を述べさせていただきます。皆様から寄せられたアンケート結果は試験運営の重要な指針となっています。

2024年度の技術者認定試験では昨年度に引き続き、年2回の試験を実施しました。受験者数は第1回256名、第2回290名で合計546名（合格者数はそれぞれ135名、134名で合計269名）となりました。これは2019年の537名を上回って過

去最高の受験者数でした。第2回の試験では高校生の合格者が奨励賞を受賞しており、学生、社会人共に多くの方々に受験いただきました。また、2024年度では初めて文部科学省と科学技術振興機構より後援をいただいています。認定試験の性質上、公的機関から正式な後援を得られたことは非常に重要な進展と言えます。他には、年2回の沖縄会場の設置や、紙媒体での広報の再開などの施策を行いました。このような様々な取り組みの積み重ねによって受験者数の拡大が達成できたものと考えています。

今後とも引き続きご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

笠原 浩太

（日本たばこ産業株式会社）

退任のご挨拶

2023年4月より会長に着任し、この3月で2年間の任期を終えることになりました。任期中は、学会の様々な活動に対して多大なご支援をいただき、感謝申し上げます。

着任当初、会員の皆様が交流しやすい学会を目指したいと考えていました。そのためにも年会は一番重要なイベントになります。2023年のJSBi年会は、「人工知能技術（AI）とバイオインフォマティクス（BI）融合によりがん医療インフォマティクス（CI）へ繋ぐ未来」というテーマで、千葉県柏市で開催されました。参加者は合計736名の盛会となりました。久しぶりに対面での懇親会も催され、直接顔を合わせて親睦を深める学会の良さを改めて感じた人も多かったかと思えます。懇親会は初めての人同士が知り合える工夫が散りばめられており、ネットワーキングに関する参加者の満足度も高かったようです。大会長を務められた鈴木穰先生、実行委員長の山下理宇先生を始め、関係者の皆様に深く感謝いたします。

2024年のJSBi年会は国際会議として、「1st Asia & Pacific Bioinformatics Joint Conference (APBJC2024)」が沖縄県那覇市にて開催されました。ISCB、APBioNET、APBC、AASBi/GIW、BioClues、GOBLETなど海外の組織との共同開催になります。世界中から720人の参加があり、盛会となりました（現地参加646人、オンライン参加74人）。50件以上の口頭発表、400件以上のポスター発表があり、研究者間の議論では熱気を凄く感じました。日本主導でこのような国際会議を成功に導くことができたのは非常に大きな意義があると思います。大会長を務められた五斗進先生、木下聖子先生を始め、関係者の皆様に深く感謝いたします。2025年度は名古屋で9月3日～5日に開催されます（大会長：白井剛先生）。詳細は現在最終調整中ですが、ぜひご予定下さい。

若手支援の一環として、APBJCではtravel fellowshipを設立し、JSBi会員限定で、APBJCで発表する14人の学生やポスドクの支援を実施しました（1人あたり最大7万5千円）。JSBiの会員である特典を実感していただけると幸いです。また後藤修先生に寄付していただいた基金を活用し、毎年の年会で優秀発表賞を「後藤修賞」という形で若手研究者に授与することになりました。前会長の五斗進先生が規約の土台を作成して下さい、実際に2023年の年会から運用を開始しました。年会での口頭発表、ポスター発表、ハイライトトラック発表が対象になりますので、ぜひ今後の年会で積極的に演題登録していただければ幸いです。受賞者の声については、JSBiニュースレターをご覧ください。バイオインフォマティクス分野に貢献している若手研究者を讃えるOxford Journals - JSBi Prizeも継続して行っております。Oxford Journals - JSBi Prizeの募集は年度明けに行いますので、奮ってご応募下さい。

また育児中の研究者を支援するため、ダイバーシティ推進のために利用できる予算を確保し、年会実行委員会だけに任せるのではなく学会本部として支援する方向性を打ち立てました。年会で託児所を設置や保育費の補助などを行うことにより、育児中の研究者・研究支援者の年会参加を促し、次世代を担うバイオインフォマティクス研究者のキャリアが途絶えないようにするのが目的です。支援案の作成については、ダイバーシティ推進幹事の松前ひろみ先生や前任者の武藤愛先生にご尽力いただき、また多くの先生方との議論により具



体的な方針が固まりました。ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

これまでのJSBi会長が築き上げてくれた学会体制のおかげもあり、JSBiは着実に成長しています。会員数も増え1,000人の大台を突破し、1,200人に迫る勢いです。バイオインフォマティクス研究の重要性が広く認識されていることの表れであり、非常に嬉しく思っております。

この2年間にいろいろな困難に直面したのですが、何とか乗り越えることができ、学会運営することができました。学会運営を支えてくれた理事・幹事の先生方、事務局の齊藤

友紀さんには大変お世話になり、深く感謝しております。一方で、年会開催の負担軽減や事務局の安定化など積み残した課題も多くあります。これらについては力不足をお詫びするとともに、2025年度からの会長である浜田道昭先生に託したいと思います。

最後になりましたが、学会員の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、引き続き学会活動へのご支援・ご協力をいただければ幸いです。

山西 芳裕

(2023年度-2024年度 日本バイオインフォマティクス学会会長)

学会議事録等

特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会 2025年度通常総会議事録

1. 日時 2025年3月28日（金）15：30～16：00

2. 場所 オンライン

3. 正会員総数 868名

出席した会員数 325名

内訳 本人出席 33名

委任状・電磁的表決出 292名

(権限を議長に委任275名、議決権行使17名)

4. 議事録署名人選任の経過

定款第26条により議長を山西芳裕理事長が務めることとなった。議長が定足数を確認し、議長が福永津嵩理事ならびに川崎純菜理事を議事録署名人に指名したところ、満場異議なくこれを承認した。

5. 議事の経過の概要及び議決の結果

第一号議案 2024年度事業報告および収支決算の承認可否

議長は、これを議事に諮ったところ、満場一致を持って異議なく可決決定した。

第二号議案 2025年度事業計画および収支予算の承認可否

議長は、これを議事に諮ったところ、満場一致を持って異議なく可決決定した。

第三号議案 役員選任の承認可否

3.1 新理事候補者の承認

議長は、理事11名が2025年3月31日に任期満了となるため、その改選について議場に諮ったところ、当法人の細則第2条に定める選挙（2025年2月10日～2月25日実施）により選出された新理事候補者10名が全会一致で決定され、被選任者はいずれもその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾した。

3.2 副理事長の承認

議長は、総会に先立って本日11時00分より行われた、2025年3月31日付での任期満了に伴う副理事長選挙の報告を行った。当法人の定款第14条および細則第4条に基づき、理事22名、および新理事候補者10名による副理事長選挙の投票の結果、大林武理事が過半数を獲得し副理事長に指名された。大林武理事を選任することを議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく可決決定され、被選任者はその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾した。

最後に改選される理事氏名を下表にまとめた。

2025年3月31日に 任期終了となる理事11名		2025年4月1日に 就任する理事10名	
浅井 潔	有田 正規	大上 雅史	沖 真弥
岩崎 涉	大上 雅史	笠原 浩太	河口 理紗
河口 理紗	小寺 正明	五斗 進	寺本 礼仁
清水 佳奈	松田 秀雄	遠里由佳子	蒔田由布子
松本 拓高	水谷紗弥佳	松本 拓高	水谷紗弥佳
山西 芳裕			

3.3 新監事の承認

議長は、監事 西村陽介会員、小貫律子会員が2025年3月31日で任期満了につきその改選方を議場に諮ったところ、満場一致をもって、小貫律子会員、角俊介会員が監事に選任され、被選任者はいずれもその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾した。

以上により議事が終了し、議長は16時閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするために、議長および議事録署名人において次に記名押印する。

2025年3月28日
特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

理 事 長 山 西 芳 裕 印
議事録署名人 福 永 津 嵩 印
議事録署名人 川 崎 純 菜 印

特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会 第32回理事会議事録

日 時 2025年3月28日（金）11：00～15：30
場 所 東京大学医科学研究所 総合研究棟8階大会
議室、オンライン
出 席 者 山西芳裕理事長、浜田道昭副理事長、浅井潔
理事、有田正規理事・幹事、大上雅史理事・
新理事、河口理紗理事・新理事、清水佳奈理
事、松田秀雄理事、松本拓高理事・幹事・新
理事、水谷紗弥佳理事・新理事、大林武理事・
幹事、荻島創一理事、川崎純菜理事、齋藤裕
理事・幹事、榎原康文理事、白井剛理事・幹
事、夏目やよい理事、福永津嵩理事・幹事、
松井求理事、山下理宇理事
（表決書提出） 該当者なし
以上 20名出席扱い
オブザーバ 五斗進新理事・幹事、中井謙太幹事、木下賢
吾幹事、笠原浩太新理事・幹事、松前ひろみ幹
事、鎌田真由美幹事、奥田修二郎幹事、遠藤
俊徳北海道地域部会長、沖真弥新理事・新幹
事、寺本礼仁新理事・新幹事、遠里由佳子新
理事・新幹事、蒔田由布子新理事、西村陽介
監事、小貫律子監事、事務局総務 齊藤友紀
議 長 山西芳裕理事長（定款35条による）

配布資料

議事次第

（審議事項参照資料）

- 別紙1.1 2024年度事業報告書
- 別紙1.2 2024年度財産目録
- 別紙1.3 2024年度貸借対照表
- 別紙1.4 2024年度活動計算書
- 別紙1.5 2024年度計算書類の注記
- 別紙1.6 予算対比正味財産増減計算書
- 別紙2.1 2025年度事業計画案
- 別紙2.2 2025年度予算案
- 別紙3 役員選任の承認可否
- 別紙4 ダイバーシティ推進に関する審議

（報告事項参照資料）

- 別紙h1-1 年会幹事 APBJC2024開催報告
- 別紙h1-2 2025年度年会について
- 別紙h2 認定試験幹事 2024年度認定試験実施報告
- 別紙h3 会計幹事 予算案報告

- 別紙h4 研究会幹事 研究会開催・予算報告
- 別紙h5 JSBi Bioinformatics Review幹事 報告事項
- 別紙h6 ダイバーシティ推進担当幹事 報告事項
- 別紙h7 ISCB幹事 報告事項
- 別紙h8 渉外担当幹事 報告事項
- 別紙h9 会長報告
- 別紙h10-1 総務幹事 審議事項議事録
- 別紙h10-2 総務幹事 2024年度会員統計
- 別紙h11 北海道地域部会2025年度活動計画
- 別紙h12-1 公募研究会 2024b-001「生命情報科学若
手の会 第16回研究会実施報告」
- 別紙h12-2 公募研究会 2024b-002「質量分析インフォ
マティクス研究会 第6回メタボロミクス
ソフトウェア講習会実施報告」
- 別紙h13 ニュースレター幹事 報告*（当日共有）

*当日幹事から直接共有された資料

山西理事長、浜田副理事長より第32回理事会開催にあつて挨拶があり、議事録署名人として福永津嵩理事、川崎純菜理事が指名され、満場異議なくこれを承認した。

議案

〈審議事項〉

第一号議案 2024年度事業報告および収支決算の承認可否

大林幹事より別紙1.1-1.6を基に2024年度事業報告および収支決算について報告が行われた。慎重な審議の結果、2024年度事業報告および収支決算は全会一致で可決され、総会に議案として付議することが承認された。

第二号議案 2025年度事業計画および収支予算の承認可否

大林理事・幹事より別紙2.1、2.2を基に2025年度事業計画および収支予算について報告が行われた。慎重な審議の結果、2025年度事業計画および収支予算案は全会一致で可決され、総会に議案として付議することが承認された。

第三号議案 役員の選任の承認可否（理事・監事）

3.1 新理事候補者の承認

山西理事長は、理事11名が2025年3月31日に任期満了となるため、その改選について議場に諮ったところ、当法人の細則第2条に定める選挙（2025年2月10日～2月25日実施）

により選出された新理事候補者10名が全会一致で決定され、被選任者はいずれもその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾したため、総会に議案として付議することとした。

3.2 副理事長の承認

議長は、総会に先立って本日11時00分より行われた、2025年3月31日付での任期満了に伴う副理事長選挙の報告を行った。当法人の定款第14条および細則第4条に基づき、理事22名、および新理事候補者10名による副理事長選挙の投票の結果、大林武理事が過半数を獲得し副理事長に指名された。大林武理事を選任することを議場に諮ったところ、満場一致をもって異議なく可決決定され、被選任者はその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾したため、総会に議案として付議することとした。

最後に改選される理事氏名を下表にまとめた。

2025年3月31日に 任期終了となる理事11名		2025年4月1日に 就任する理事10名	
浅井 潔	有田 正規	大上 雅史	沖 真弥
岩崎 渉	大上 雅史	笠原 浩太	河口 理紗
河口 理紗	小寺 正明	五斗 進	寺本 礼仁
清水 佳奈	松田 秀雄	遠里由佳子	蒔田由布子
松本 拡高	水谷紗弥佳	松本 拡高	水谷紗弥佳
山西 芳裕			

3.3 新監事の承認

議長は、監事 西村陽介会員、小貫律子会員が2025年3月31日で任期満了につきその改選方を議場に諮ったところ、満場一致をもって、小貫律子会員、角俊介会員が監事に選任され、被選任者はいずれもその就任（就任日 2025年4月1日）を承諾したため、総会に議案として付議することとした。

第四号議案 地域部会長の承認可否

次期理事長である浜田副理事長より、2025年度の地域部会長について以下の提案があり、全会一致で異議なく可決された。

遠藤 俊徳（北海道大学大学院情報科学研究院）

北海道地域部会

木下 賢吾（東北大学大学院情報科学研究科）

東北地域部会

小川 哲平（三井情報株式会社DX第一営業本部バイオヘルスケア事業部）

関西地域部会

森田 瑞樹（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科）

中国・四国地域部会

井上健太郎（宮崎大学工学教育研究部）

九州地域部会

池松 真也（沖縄工業高等専門学校生物資源工学科）

沖縄地域部会

第五号議案 幹事の承認可否

次期理事長である浜田副理事長より、2025年度の幹事について以下の提案があり、全会一致で異議なく可決された。

会長補佐：山西芳裕、五斗進

総務：中井謙太

年会：木下賢吾、浅井潔、白井剛（2025年大会長）、榊原康文（2026年大会長）

会計：大林武、福永津嵩

認定試験：白井剛、笠原浩太

研究会：河口理紗、沖真弥

ニュースレター：尾崎遼、松本拡高

JSBi Bioinformatics Review：松本拡高、尾崎遼

ダイバーシティ推進：松前ひろみ、寺本礼仁

ISCB：山西芳裕、清水佳奈

若手：大上雅史

渉外：遠里由佳子、浜田道昭

連携：鎌田真由美、荻島創一

広報：齋藤裕、松井求

人材育成：有田正規、中井謙太

活性化：川崎純菜、福永津嵩

個別化医療推進：木下賢吾

Genome Informatics：浜田道昭

第六号議案 ダイバーシティ推進に関する審議事項

松前幹事より、2024年度9月理事会で議論した託児所設置案について、内規整備を進めることとなっていたが、その案について別紙4を基に説明があった。これを議事に諮ったところ、方針については全会一致で承認された。なお、内容・文言について現時点では方針が定まらない項目については明確な表現を避けて、内規として定める方針となった。

次に、男女共同連絡協議会に関する審議事項について別紙4を基に説明があった。具体的には継続加入とするか否か、加入を継続した場合の負担について論点となったが、継続して検討することになった。

〈報告事項〉

【各幹事、会長からの報告】

- 1 年会（木下賢吾理事・幹事・地域部会長、五斗新理事・幹事、白井理事・幹事、榊原理事）

木下幹事より年会全体についての報告があった。来年の年会について北里大学の榊原康文理事が年会長となり開催予定であること、再来年の年会については現在検討中であることが報告された。各年度の年会についてまず五斗新理事・幹事より、別紙h1-1に基づきAPBJC2024開催報告がなされた。参加者は約600名以上、アジア・ヨーロッパ圏

からの参加も多く盛会となったこと、会計としても大幅な黒字となったことが報告された。この収益については次回APBJCへの補助分と主催3学会での配分とすること、国際学会の運営に関する課題、また今後の残務についての説明があった。次に白井理事・幹事より別紙h1-2に基づき2025年度年会開催準備の進捗について報告があった。渉外幹事の浜田副理事より、賛助会員からキャリアセッションを復活させてほしいという意見があったことから、プログラム枠に余裕があれば相談したい旨申し出があった。また口頭・ポスター投票については公平な投票・得票となるよう工夫が必要との意見があった。大会長である白井理事・幹事より、年会のプログラムについて理事・幹事へ協力要請があり、ナイトセッションについては若手幹事の大上理事が引き受けて下さり、ワークショップは複数の理事・幹事が引き受けて下さることとなった。

2026年度年会については榊原理事より、大会長榊原理事、実行委員長鎌田幹事の体制で、北里大学白金キャンパスもしくは相模原キャンパスで開催を予定しているとの説明がなされた。

2 認定試験（笠原幹事・白井幹事）

笠原新理事・幹事より、別紙h2に基づき2024年度認定試験の開催報告があった。2024年度は文部科学省・科学技術振興機構の後援を受けられたこと、また本年度の受験者数が認定試験開催以来過去最高人数となったことが報告された。一方で開催に際しての認定試験事務局の負担が大きく、今後の持続可能な体制の整備について問題提起があった。これについて、浜田副理事長より、学会の事務局全体としても事務局の再整備について検討をしている旨説明があり、学会として継続して検討することとなった。

3 会計（大林幹事）

大林理事・幹事より、審議事項で説明があった2024年度の財務状況報告以外に、学会の収入に関する説明ならびに黒字になった各活動の収入を学会活動の中でどのように運用すべきか学会として今後議論が必要である旨説明があった。また、インボイス制度が導入されたことによって年会会計を学会本部会計に正確に組み込む必要があるため、年会事務局に学会事務局が入って運営を行うことが望ましいという説明があった。今後の黒字収入の運用について会計幹事の観点から、事務局整備のほか、学会認知活動（試験、書籍、刊行物、公募研究会の柔軟な採択）、年会充実活動（託児所等）などが適当な方向ではという提案があり、今後学会として検討していくこととなった。

4 研究会（河口幹事）

河口理事・幹事より、別紙h4に基づき、2024年度公募

研究会の開催報告・2025年度公募研究会の採択報告があった。公募研究会への応募者が毎年ほぼ同じであることも含め、研究会単位での申請ではなくさらに小規模な集まりや年会ワークショップの旅費支援等、応募条件や採択を柔軟にできるよう、応募要領や規則を改定し2026年度の研究会募集から運用を目標としたい旨説明があった。

5 ニュースレター（尾崎幹事、松本理事・幹事）

尾崎幹事より、別紙h13に基づき、ニュースレターに関する報告があった。次回第47号ニュースレターは年会開催前までに発行を目指していること、また、ニュースレターのnoteへの記事化については今後継続して進めていく旨説明があった。

6 JSBi Bioinformatics Review（松本理事・幹事、尾崎幹事）

松本幹事より、別紙h5に基づき、JSBi Bioinformatics Reviewに関する報告があった。6月上旬に第6巻1号（2025）、11月には6巻2号（2026）の公開を予定していることが報告された。

7 ダイバーシティ推進（松前幹事）

松前幹事より、別紙h6に基づき男女共同参画学協会連絡報告会の参加報告があった。これに関する審議事項は理事会前半で議論された通り。今後の予定として同学協会から男女比率調査等の協力依頼がある予定との説明があった。

8 ISCB（山西理事・幹事）

山西幹事より、別紙h7に基づき、ISCB・ISMBに関する報告があった。ISCBのオフィシャルジャーナルであるBioinformatics Advancesについて、山西理事・幹事がAssociate Editorを務めている旨説明があり、山西理事・幹事のISCB役員の任期があと2年でされることから、後任の協力要請があった。また今後の国際学会のProceedingsの掲載先として本誌も候補として検討してもらえるよう依頼があった。

9 渉外（浜田理事・幹事）

浜田幹事より、別紙h8に基づき賛助会員へアンケートを行ったことが報告された。アンケートの回答内容について各社から具体的な要望が寄せられ、今後のアクションプランの原案として活動したいとの説明があった。

10 会長（山西理事長・幹事）

山西理事長より、別紙h9に基づきNature誌の特集号Bioinformatics in Japanへの投稿・掲載について、メール審議で投稿に関しては賛成多数で一応可決となったものの、再度説明があった。これについて、齋藤裕理事・幹事

から協力が可能である旨コメントがあった。特に締切期日がないことから、今後も合同掲載に参加希望がある場合には山西理事長へ連絡をすることとなった。

11 総務（中井幹事）

中井幹事より別紙h10に基づき、会員数等の統計情報（2025年3月末時点）・メール審議（2024年10月～2025年3月）について報告があった。この報告とは別に、福永理事・幹事から、インターネット上の複数の書き込みで会員申込みについて遅延が発生している可能性があるとの情報提供された。また浅井理事より会費納入後の領収書発行などにも効率化が望めないか意見があった。これらについては学会支援機構に相談することとなった。松田理事から総会の委任状回収について改善案がないか意見があった。これについても問題のない範囲で効率的に進める方策がないか学会支援機構に相談することとなった。

【地域部会長からの報告】

12 北海道地域部会（遠藤地域部会長）

北海道地域部会長の遠藤先生より、別紙h11に基づき今後の活動計画について報告があった。研究会幹事からの報告に関連して、北海道大学では研究会の開催形態（共催・協賛・後援等）によって会場利用料に差が出るため、今後公募研究会ルールが緩和されることに関しては非常にありがたいとのことであった。

13 公募研究報告

山西理事長より代表者の代理で、2024年度後半に行った公募研究会の報告があった。

14 監事からのコメント（西村監事、小貫監事）

西村監事より、今年度は国際会議があったため財政状況が非常によくなっていることが目立ったこと、また財政的な余裕ができたことから、事務局整備を進めるよう意見があった。小貫監事からも、学会の財政状況がよくなったことから、事務局整備や研究会助成等有効に使用するよう意見があった。

以上

以上により議事が終了し、議長は15時30分閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするために、議長および議事録署名人において次に記名押印する。

2025年3月28日

特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会

理 事 長	山 西 芳 裕	印
議事録署名人	福 永 津 嵩	印
議事録署名人	川 崎 純 菜	印

学会の現況

有効会員数（2025年7月現在）正会員：888名 学生会員：317名 賛助会員：21社 名誉会員：7名
特定非営利活動法人 日本バイオインフォマティクス学会 2025年度役員一覧

会 長	浜田 道昭（早稲田大学 理工学術院）
副 会 長	大林 武（東北大学大学院情報科学研究科）
地域部会長	遠藤 俊徳（北海道大学大学院情報科学研究院）北海道地域部会
	木下 賢吾（東北大学大学院情報科学研究科）東北地域部会
	小川 哲平（三井情報株式会社）関西地域部会
	森田 瑞樹（岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科）中国・四国地域部会
	井上健太郎（宮崎大学工学教育研究部）九州地域部会
	池松 真也（沖縄工業高等専門学校生物資源工学科）沖縄地域部会
理 事	大林 武（東北大学大学院情報科学研究科）
	荻島 創一（東北大学高等研究機構 未来型医療創成センター / 東北メディカル・メガバンク機構）
	川崎 純菜（千葉大学大学院医学研究院）
	齋藤 裕（北里大学未来工学部）
	榊原 康文（慶應義塾大学理工学部）
	白井 剛（長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部）
	夏目やよい（医薬基盤・健康・栄養研究所）
	浜田 道昭（早稲田大学理工学術院）
	福永 津嵩（慶應義塾大学理工学部）
	松井 求（京都大学化学研究所）
	山下 理宇（国立がん研究センター先端医療開発センター）
	大上 雅史（東京科学大学 情報理工学院）
	沖 真弥（熊本大学生命資源研究支援センター）
	笠原 浩太（日本たばこ産業株式会社医薬総合研究所）
	河口 理紗（東京大学大学院薬学系研究科 / 京都大学 iPS細胞研究所）
	五斗 進（情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設 ライフサイエンス統合データベースセンター）
	寺本 礼仁（中外製薬株式会社モダリティ基盤研究部）
	遠里由佳子（立命館大学情報理工学部）
	蒔田由布子（前橋工科大学工学部）
	松本 拓高（長崎大学 情報データ科学部）
	水谷紗弥佳（東京科学大学 生命理工学院）
監 事	小貫 律子（埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所）
	角 俊輔（東京大学定量生命科学研究所）

賛助会員一覧

（2025年1月現在、賛助会員口数および五十音順）

株式会社日立製作所
 岩井化学薬品株式会社
 株式会社BlueMeme
 株式会社アンブラット
 H.U.グループホールディングス株式会社
 エーザイ株式会社
 国立研究開発法人科学技術振興機構 NBDC事業推進部
 Crimson Interactive Pvt. Ltd.
 塩野義製薬株式会社
 住友化学株式会社
 タカラバイオ株式会社
 田辺三菱製薬株式会社
 日本たばこ産業（JT）
 中外製薬株式会社
 学校法人滋慶学園東京医薬看護専門学校
 株式会社ナベ インターナショナル
 株式会社ナレッジパレット
 ノボザイムズジャパン株式会社
 一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム
 有限会社パスウェイソリューションズ
 三井情報株式会社

Data Scientist (正社員) 募集 novonesis

■ 職務概要

デンマークに本社のある産業用酵素シェア世界一のNovozymes社と乳製品用微生物シェア世界一のChristian Hansen社が合併しNovonesisが誕生しました。Novonesisは、外資系としては稀な日本にコアR&Dをもつ企業です。地球環境、食糧問題などヘルサステイナブルなバイオソリューションを提供し続けています。

本ポジションでは、グローバル企業の日本の基盤R&D拠点において、Linux ベースのデータインフラストラクチャとデータフローの開発・管理を担当し、Benchling 上での業務の自動化を促進します。日本のWET研究チームおよびグローバル IT チーム・プロジェクトチームと協力して業務を進められる方を求めています。また、ゲノミクスや次世代シーケンシング (NGS) データの取り扱い経験がある方を歓迎します。

★ 主な業務内容 (必須スキル領域)

- LinuxベースのR&Dサーバーの構築・設定・運用管理
- グローバル R&D チームとのデータガバナンス調整
- 研究機器とサーバー間のデータパイプラインの管理・開発・文書化
- Pythonやシェルスクリプトによるデータワークフローの自動化
- Gitによるスクリプトや設定ファイルのバージョン管理

🔧 歓迎する業務内容 (セカンダリースキル)

- ゲノミクス/NGSデータ解析パイプラインの構築・運用経験
- BWA、GATK、FastQC、samtoolsなどのバイオインフォマティクスツールの使用経験

■ 応募資格 (技術レベルは応相談)

- Linuxシステム管理およびコマンドライン操作の実務経験・習熟知識
- PythonまたはRプログラミングの高度なスキル
- Gitによるバージョン管理の堅実なスキル
- Benchlingに関する知識
- 英語での技術的なコミュニケーション (文書および口頭) が可能な方
- コンピュータサイエンス、バイオインフォマティクス、情報工学、または関連分野の学士号以上

ノボザイムズ ジャパン株式会社 研究開発部門
所在地: 千葉市美浜区中瀬南テックノガーデンCB-5 (JR京葉線 海浜幕張駅前)
募集内容詳細は、JREC-IN Portalの求人公開情報検索サイトで「ノボザイムズ」で検索、
あるいは、松村 (toma@novonesis.com) までお問い合わせください



Biotechnology
Innovates
Our life

TAKARA BIO INC.

私たちは遺伝子治療、ワクチン製造、ゲノム解析など、革新的なバイオ技術の開発を通じて社会に貢献することを目指しています。

新たな領域で成長や社会的意義を実感したい、多様な技術に関わりたいバイオインフォマティクス人材を歓迎します！



タカラバイオ株式会社

採用情報はこちら

日本バイオインフォマティクス学会ニュースレター第47号

発行日 2025年8月27日
発行 者 特定非営利活動法人日本バイオインフォマティクス学会(理事長 浜田道昭)
編 集 尾崎遼・松本拓高(学会幹事)、齊藤友紀(学会事務局)
デザイ ン ウチダヒロコ
組 版 勝美印刷株式会社

編集後記

今号では、前会長の山西先生による退任のご挨拶と、新会長の浜田先生による就任のご挨拶を掲載しています。JSBiのこれまでの歩みを振り返るとともに、これからの方向性が感じられる内容です。また、いよいよ第13回生命医薬情報学連合大会・日本バイオインフォマティクス学会年会（IIBMP 2025）が2025年9月3～5日に名古屋大学で開催されます。名古屋での開催は初めてとのことで、新しい出会いや議論が生まれる場となることを期待しています。さらに、おそらく初めての試みとして、会員による著書を別の会員が書評する記事が掲載されています。いつもと少し違う切り口もお楽しみください。（尾崎・松本）

いよいよ名古屋年会ですね。名古屋といえば…名港トリトン！ご存知ですか？東名高速を東京方面から走って、名古屋南JCTを過ぎるとしばらくして視界が急に開けて、名古屋港にかかる橋をいくつも越えてゆく区間に差し掛かります（伊勢湾岸自動車道）。ここ一帯を名港トリトンと呼ぶのですが、昼も夜も景色が絶景です！渡りきって湾岸長島PAが見えると「近畿地方…」と感じたものです。この名港トリトンの下道に「ロサンゼルス大通り」「メキシコ大通り」「南京大路」とあり、いつも不思議に思っていたのですが、その心は、名古屋市と姉妹友好都市提携を結んでいる都市の名前をつけた通りとのこと。なるほど。

さて年会の話題に戻ります。今年は初日と最終日に学会主催のランチョンセミナーを実施します。実施担当の先生のご尽力により、これまでにない非常に面白い内容になっていますのでぜひ皆様ご参加下さい！最終日のランチョン弁当は味噌カツlunch boxですよ。（事務局・齊藤）